

# 米国金融政策（2026年6月FOMC）

## 4会合連続で政策金利の据え置きを決定、様子見継続へ

2026年6月18日

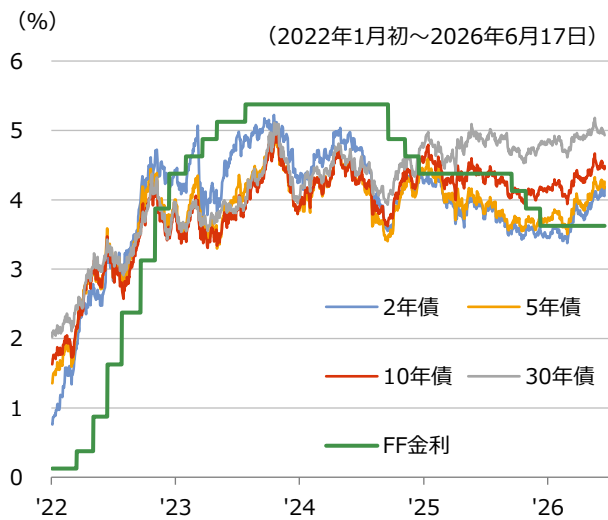
### 先行きの利下げバイアスに関する文言をついに削除

FRB（米国連邦準備制度理事会）は6月16日～17日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを3.50～3.75%で据え置くことを決定しました。

今回の声明文で景気は「堅調」、失業率は「ほとんど変化なし」、インフレは「高止まったまま」との判断に大きな変化はなかった一方、労働生産性ならびに設備投資は「強い」と新たに指摘されました。今後の利下げバイアスを示す文言は、ここ数会合で反対論が強まっていたため、削除されました。FRB議長に新たに就任したウォーシュ氏は「物価の安定を実現する」と述べ、FOMC参加者の2026年末FF金利見通しは中央値で1回（0.25%pt）弱の利上げが示されました。もっとも、ウォーシュ議長自身は見通しを提出していないとみられるほか、18人中8人は据え置きを想定するなど、FOMC内で見方が分かれています。

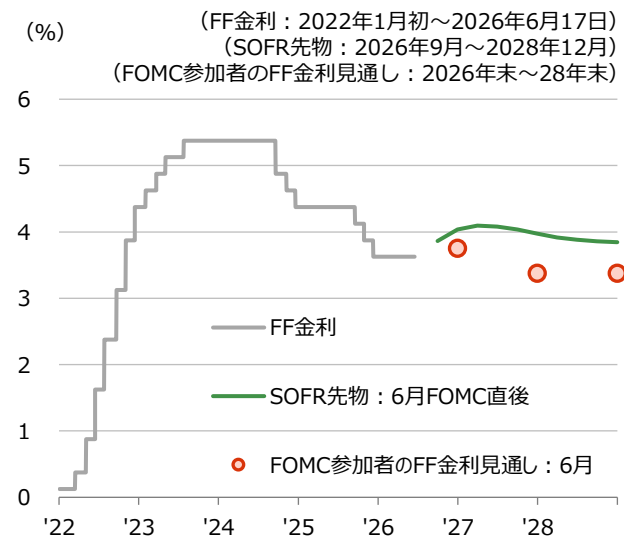
市場参加者の間でFOMCに先駆けて利上げ機運が高まりつつありましたが、今回の結果を受けて、金利は短期を中心に上昇、株価は下落しました。FF金利先物では10月FOMCにかけて利上げが完全に織り込まれたほか、年内累計の織り込み幅は0.38%ptと1.5回超に高まっています。他方、米国はイランと戦闘終結に向けた覚書に合意し、原油価格は大きく下落しています。利上げの有無は、インフレ期待の安定度合いや景気モメンタムなどに左右されることになるでしょう。

#### FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値  
(出所) ブルームバーグ

#### FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値  
SOFRは担保付翌日物調達金利 (出所) FRB、ブルームバーグ

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。